

No.	地区	項目	意見要約	市長回答 (NO8については所管課回答)	所管課	所管課補足
1	大高	高校時代の過ごし方について	市長が大学を決めた時期と高校時代の平日・休日のルーティンを教えてください。	私が大学を決めた時期は、周りと比べても遅く、高校2年の中旬頃でした。学部まではっきり決めたのは高校3年生になってからです。目標を決めてからは頑張るしかないので、早めに志望校を決めることは大事かと思います。 私の高校時代についてですが、高校からサッカー部に入りましたが、練習について行けず、1年の夏休みには退部しました。自分なりに挫折を味わい、一念発起して勉強に励むようになったところですよ。下宿にはテレビもなく、ラジオと週刊マンガを楽しむに、ストイックに勉強に励んだところですが、今とは時代も違いますので、参考になるか分かりませんが、そのような高校時代を送りました。		
2	大高	若者の転出の現状と戻りたいと思える島づくりについて	市長はなぜ島にもどって島のために貢献したいと思ったのか。若者が転出し、島に戻らない人もいますが、その現状についてどう考えるか、また、転出した若者が戻ってきたいと思える島づくりについて、どのように対応すべきと考えているか。	(市長) 私も高校から本土に出ましたが、島の人の温かさや、やさしさは常々感じておりました。島の外で生活をして初めて、島の良さが身に染みて実感できる部分もあると思います。大学を卒業する頃は、本土で就職して、定年してから島に戻ろうと考えていましたので、卒業後、2年間は民間企業の経営コンサルティング会社で、サラリーマンとして働いていました。しかし、過酷な労働環境で働く中、自分の生き方を考える機会があり、熟考の末、島に戻ろうと思ったところです。島にこそチャンスがある、島の良さ、幸福感の高さを本土の方に伝えたい、そのために政治にチャレンジしようとの結論に至りました。 島に帰りたくても帰ることがかなわない方もいらっしゃると思いますので、縁があり故郷である島を、ぜひ引き続き応援していただきたいと思います。私どもとしては、故郷奄美をしっかりと守り、若い世代の皆さんに引き継いでいけるよう、今後とも取り組んでいきたいと思っておりますので、皆さんには故郷奄美にぜひアンテナを張っていただければと思います。 (企画調整課長) 若者が島を離れることは事実ではありますが、今年度、奄美市で総合計画を作成する中で、世代間の回復率について集計・整理を行っております。その中で、3割以上は島に戻ってきているとの数字が上がってきており、全国と比較しても決して低い数字ではありませんので、若者が帰ってきたくなる、魅力のある地域として、回復率が益々高くなるよう、地域を守り創っていききたいと思っております。ぜひ皆さんには先々帰ってきてほしいと思っておりますので、よろしく申し上げます。また、来年度から「みんなのしまさばくり応援事業」として、地域づくり・まちづくりのパートナーとして活躍する学生の皆さんを、更に応援する事業を計画しております。	企画調整課	補足なし
3	大高	奄美市の課題と解決のための取組みについて	大島高校では「サクセスタイム」と呼ばれる、自分たちで課題を見つけ、解決に向けた活動をしている。市長の思う奄美市の一番大きな課題と解決に向けた取組みを教えてください。	よく言われるのは人口減少ですが、日本全国、また一部の国でも人口減少が進んでいるところですので、人口減少自体が課題だとは思っておらず、大きな課題として二つ上げたいと思います。一つはしっかりと稼げる地域になる、経済活性化です。若い世代の方々が島に帰ってきやすくなるためにも経済の活性化は重要だと思います。もう一つは、人口が減少しても活気を失わないまちであることが大切だと思います。市民の皆さんが、更に自治力を高めていただければ、地域が活力を失うことはないと思います。	企画調整課	奄美市の課題や取組の方針につきましては、「未来の奄美市づくり計画」や「『未来づくり』総合戦略2025」等にも記載しております。市HPに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。 奄美市の施策・計画（奄美市HP） https://www.city.amami.lg.jp/shise/shisaku/index.html

No.	地区	項目	意見要約	市長回答 (N08については所管課回答)	所管課	所管課補足
4	大高	マリントウン・測候所跡地について	マリントウンでの都市化に関する事業についてどのように考えていますか。また、測候所跡地はどのような活用が考えられますか。	マリントウンについては、分譲地ですので、民間企業が投資をして施設整備などを行っているところです。また、マリントウンについては、分譲してから10年間は小売業が整備できないことになっておりますが、基本的に民間企業が事業経営の中で出店するかどうかの判断をすることになりますので、ご理解ください。測候所跡地については、子育てと健康づくりの拠点にできればと考えております。	財政課 重点政策推進監	(財政課) (重点政策推進監) 補足なし
5	大高	奄美市の可能性と理想像は	島にチャンスがあると話されていましたが、市長が思う奄美市の可能性や理想像を聞かせてください。	奄美は、学術的に研究されていない部分が多岐に渡り存在しています。日本の古代文化の原型があると言われており、動植物についても未発見のモノが奄美に存在するのではないかと考えております。自然や歴史、文化を残していくことで、更に可能性が広がってくるものと考えておりますし、奄美の人々の暮らしや生活そのものも魅力や可能性に繋がっていると思いますので、大切に守り残して、若い世代の皆さんに引き継いでいけるよう頑張ってまいりますので、よろしくお願いします。	世界自然遺産課 文化財課	(世界自然遺産課) (文化財課) 補足なし
6	大高	市長としての思いと使命感・責任感について	市長としての思いや使命感、責任感について教えてください。	自分自身の選挙公約については、個人として、実現するために常々心がけているところですが、行政は組織で仕事をしておりますので、市民の皆さんが赤ちゃんからお年寄りまで、安心して暮らしていけるよう様々なことに取り組まさせていただいております。特に災害が起きたときは、市として果たすべき役割がとても大きいと思います。災害はいつ起きるやもしれませんので、気を引き締めて、今後とも取り組んでまいりたいと思います。市民の皆さんに喜んでもらえる、笑顔や幸せを感じていただけるよう、一つでも多く笑顔を増やしていきたいというのが行政や私の基礎としてあるところです。		
7	大高	他町村等との連携について	奄美市だけでは解決できない事項について、他町村との連携やどのような活動をされているのか教えてほしい。	奄美大島だけで5市町村、奄美群島では12市町村ありますので、定期的に話し合いの場を設け、全体として県や国に働きかけを行っております。観光や環境保全など、市町村をまたがる課題に関しては、引き続き他町村や県・国と連携しながら、解決に向けて取り組んでまいりたいと思います。		
8	大高	バス通学について	笠利町から大島高校に通学するためのバスの本数が少ないので、増やせないか。また、名瀬から大島北高校に通う際に通学補助があると聞くと、笠利から大島高校に通学する際のバス代補助がないのはなぜか。	奄美市では高校生の遠距離通学支援制度として、通学バスの定期券代(片道9km以上)の2/3を市が補助しています。大島高校・奄美高校に通う生徒については、笠利地区にお住まいの方は全域が対象となりますので、どうぞよろしくお願いいたします。	教育委員会 教育総務課	